

ASCO2016に参加して



若年がんサバイバー & ケアギバー集いの場くまの間 加藤 那津

1. はじめに

この度は昨年につき PAL ASCO2016 プログラムにて 6/3～6/7 までシカゴで開催された ASCO2016 に参加させていただきました。

昨年は、本当に右も左もわからない状態でしたが、今年は少し気持ちの余裕もでき、2年連続で行かせていただけた意味がよくわかりました。

また、昨年は「良い経験をさせていただけた」と思うのが精一杯でしたが、昨年の帰国後からがん全般の学びを少し深め、また医療用英語の勉強も少ししてきたので今回は「良い経験をさせていただけた」以上のものとなりました。

2. 出発まで

昨年につき、2度目と言うこともあり、飛行機や宿は早めに予約しました。

昨年不安を感じた Wi-fi についても前もって手配しました。しかし、せっかく準備したにも関わらずなぜか私の持っているスマートフォンもタブレットも ASCO の iPlaner をダウンロードすることができず、結局聞きたいセッションを紙にプリントアウトし持参しました。

3. ASCO2016に参加

会期前日の夕方にシカゴ入りし、翌日からの学会参加に備えました。

会場となっているマコーミックプレイスはとても広いので会場と会場の移動にとっても時間が掛かることや、昨年の経験で会場内がどこも凍えるように寒いことから、カイロや防寒グッズを用意し、歩きやすい靴で参加しました。今年の会場の冷房は幾分弱くなっていたようで凍えることはありませんでした。



宿泊先近くから ASCO の会場近くまで無料シャトルバスに乗車し会場入り。

レジストレーションを済ませ、まずはパシエントアドボケイトが集まるラウンジへ向かいました。



4. セッションへの参加

昨年は、「遺伝」、「乳がん」、「サバイバーシップ」をキーワードに参加セッションを決めましたが、今年もだいたい同じようなキーワードで参加セッションを決めました。



5. パイシエント・アドボケイト・ラウンジ

パイシエント・アドボケイト・ラウンジはパイシエント・アドボケイトとして参加している人が利用できるラウンジであり、ここでは PC で調べ物ができたり、世界各国、全米各地から参加している患者団体の人と交流することができたり、資料の収集をすることもできました。患者向けセッションもそこで開かれていました。

また、朝食、昼食、軽食、飲み物などが用意されているのでセッションの始まる前や 合間に休憩することもできました。



ラウンジで他の患者団体の方と交流ができるのもここならではの魅力です。以前日本のある学術集會でお目に掛かったことのある米国の若年性乳がん患者支援団体 YSC(Young Survival Coalition)の副代表 Stacy さんや、米国の遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)患者団体 FORCE(Facing Our Risk of Cancer Empowered)の代表 Sue さんと昨年に続き再会することができました。他の乳がん患者団体の方とも交流できました。



6. 患者団体のブース

ASCO がスポンサーとなって、患者団体のためのブースが製薬企業やその他様々な企業のブースがあるのと同じ展示会場に(日本癌治療学会のブースもここに)ありました。様々ながん種の患者団体がブースを設けていました。ここでは、資料を集めたり、患者団体の方からお話を聞いたり、ラウンジとはまた違った形の交流をすることができました。



おわりに

今回は昨年に続き 2 回目の ASCO に参加させていただきましたが、今回も今後の課題がたくさん見つかりました。昨年 11 月より地元名古屋で立ち上げた若年のサバイバーさんなどの交流会のためのヒントもたくさん得ることができました。

また、昨年も感じたことですが、日常会話ができて医療用英語の知識も必要だと更に痛感しました。医療英語の勉強も少しずつ継続して行こうと思います。

日本癌治療学会から助成金を戴いた上での ASCO 参加は今年最後になりましたが、来年以降 ASCO のスカラシップに応募し今後も参加することができればと考えて居ます。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。今後の患者活動に活かして行きます。

